

サンクゼールの森プロジェクト

2019年度

年次報告書

2020年3月

**信州大学教育学部
森林生態学研究室**

< 目 次 >

1. サンクゼールの森プロジェクトのコンセプト -----	3
2. プロジェクトの実施体制 -----	4
3. 目指す森と具体的な整備の方向性 -----	5
4. これまでの取り組みの概要 -----	13
5. 2019 年の活動記録（研修会・観察会・講演会含む） ----	14
6. 2019 年の現地調査 -----	31
(1) サクラソウ他希少植物調査 -----	31
(2) 春植物分布調査 -----	34
(3) 新たに確認された植物（2019 年度フロラ追加種） -----	37
(4) 哺乳類調査（センサーカメラ） -----	38
(5) 鳥類調査 -----	41
(6) 昆虫類調査 -----	44
(7) 植生図・図面 -----	46
(8) 写真 -----	49

1. サンクゼールの森プロジェクトのコンセプト

本プロジェクトは、以下のような内容をコンセプトとして、2014 年度より進めているものです。サンクゼールの森が、人と森とが気軽に関われる場となることを目指し、取り組みを進めています。

◀◀◀ 目指す方向 ▶▶▶

サンクゼールで
地域の自然を活かした豊かな森を育てる
森と人とのつながりをつくる



＜社員にとって＞

サンクゼールの森に
親しむことで
自然豊かな地域である
ことの誇りとHOME
を感じられるような職場となる

＜お客さまにとって＞

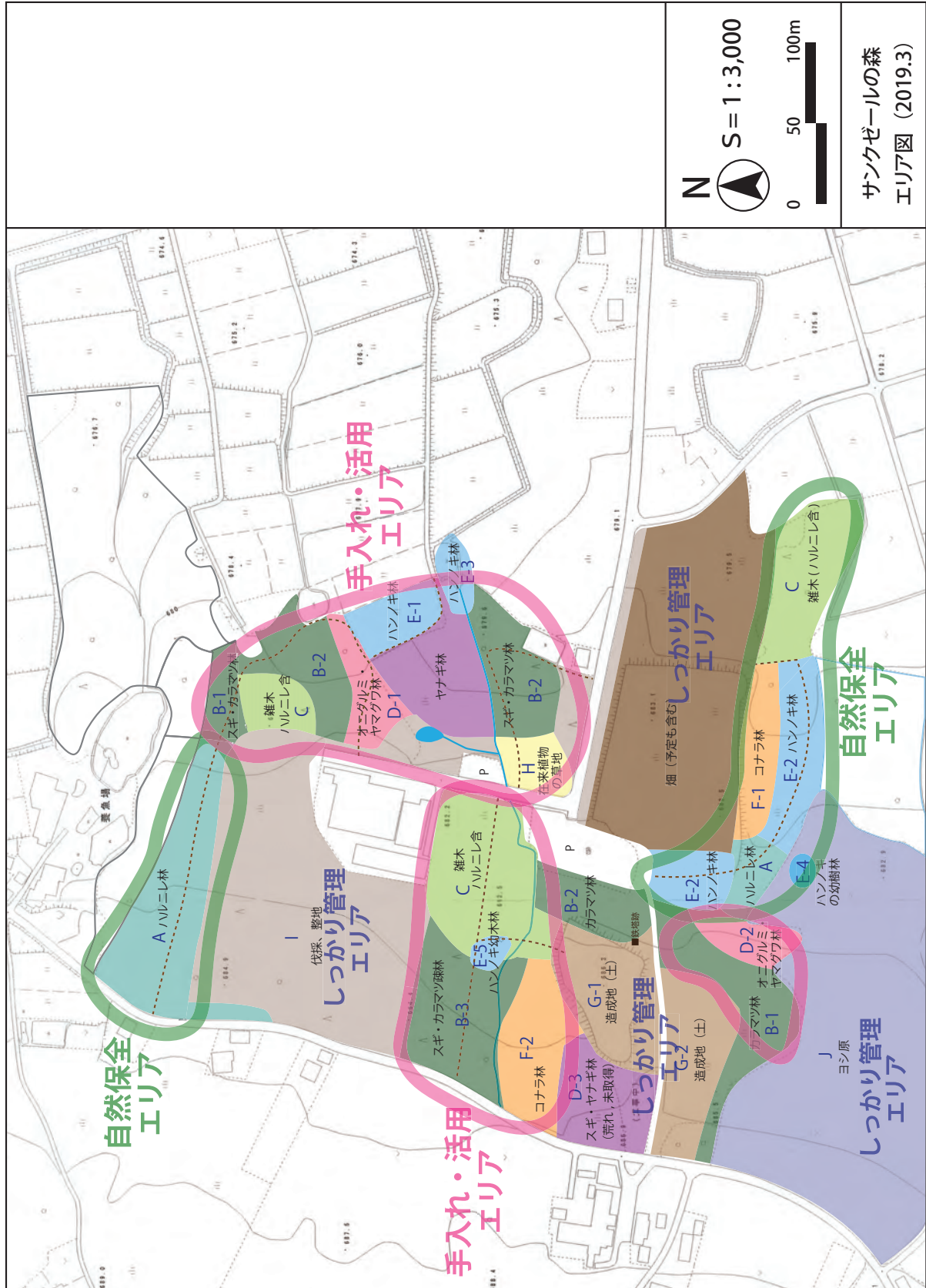
サンクゼールが
北信濃の自然豊かな地域発、
であることの魅力を
感じてもらう

＜サンクゼール全社にとって＞

- ・ブランドイメージアップや商品・サービス開発などに活用し、
経営にとってもよい循環をつくっていきける
- ・ここでしか体験できない価値を生み出していくことができる

3. 目指す森と具体的な整備の方向性

現在の森の現状と整備方針について示します。2015年12月にサンクゼールの森はどんな森を目指すのか、どう整備を進めていくのかについて提示資料の抜粋を示します。



サンクゼールの森プロジェクト 資料

2015.12.11 信州大学森林生態学研究室

サンクゼールの森の原点は…
人と森が気軽に関われる場を創出すること



1. 目指すのは、ハルニレの森の復活

<安定したハルニレ林の姿（長野県の場合）>

- ハルニレ林の立地は、河川沿いの堆積土砂上。
多くの場合平坦地。
- 平均樹高が 20m を超える。
- 高木層はハルニレが優占して、植被率約 80%。
- ほかにミズナラ、サワフタギ、ヤチダモ、オノエヤナギなどが少数混生。
- 亜高木層は植被率 20~30% と低く、時に欠如。
- 低木層⇔草本層はどちらかが大きければ、どちらかは少ない、というバランスで成立。
- 草本層は、種数が多いのが特徴。
(林床に光が当たっているということ)



新緑のハルニレ林 （上高地 5 月末）

<ハルニレのことあれこれ>

学名：Ulmus davidiana var japonica

- ニレは英名でエルム elm
- 分布：中国東北部から朝鮮半島、日本にかけて分布。日本産種は大陸産のものと比べて果実の毛が生えてないことから変種とする。
- 孤立した樹木は枝をいっぱいに広げて、半球形の樹形となり、好まれる。
- 北海道ではハルニレ林は平坦で肥沃な扇状地に育つので、ハルニレの木を目標に開拓されたという。
- ヨーロッパでは榆と葡萄は良縁の象徴とされる。古代ローマ時代からイタリアではブドウを仕立てる支柱としてニレを使うために、ブドウ畑でニレも一緒に栽培していた。成長したニレは樹高 3m 程度のところで幹を切断する。ニレは萌芽出すのでこれを横方向に仕立ててぶどうの蔓を絡ませてやるのだという。



ハルニレ林の林床にニリンソウの群落（上高地 5 月末）



緑の頃のハルニレ林 （上高地 7 月末）



2. 整備方針

◎ 里山の管理は「順応的管理」がポイント！

なんでもきっちり決めすぎない。ようすを見ながら、柔軟に進める。

下記に示す整備内容も現在のめやすである。

多少やりすぎた場合も OK。土と根が残っていれば、日本の植生には回復力がある。

◎ パッチワーク状のさまざまな環境をつくる

すべての動植物に適した環境はない。

いろんな環境をつくると、いろんな動植物が生きることができる。

日当たり、水分環境…など。

例えば、下草刈りはエリアごとに3～5年周期でやるという方法もよい。

◎ 自生種を活かす。外から植物を持ち込まない

◎ 森の恵みの循環を目指す

伐採した樹木や落ち葉などを暮らしや耕作地に循環させることで、森への感謝のきもちが
うまれ、人と自然のつながりが深まる。循環を意識した手入れを目指す。



作業分担、流れ

- ① みなで、森の見立てを行う。イメージやおおまかな作業の共有。
- ② これまでの調査結果から、主に信大チームで残したい樹木や保全したい環境を決める。
- ③ その際に樹木札をつけられるとよい。
- ④ 具体的な整備作業は土屋さんを中心にすすめる。

5. どんな手入れが必要か？

2つの植生の事例からみる森のイメージ

ex.雑木林 (E エリア)

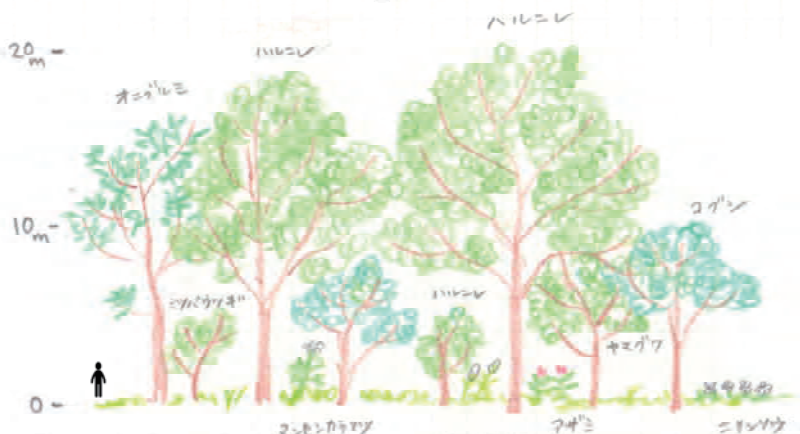
< 植生の現状 >

- ×上層木がごちゃごちゃと混み合っている。
- ×樹木の樹種がバラバラで森にまとまりがない。
- ×林床は樹木が多くヤブになっていて、歩けない。
- ×草花が少ない。
- 下からハルニレなど育ってきている。
- 少ないけれど、シシウド、マンセンカラマツなど花の美しい草花も自生。



< こんな森に育てたい >

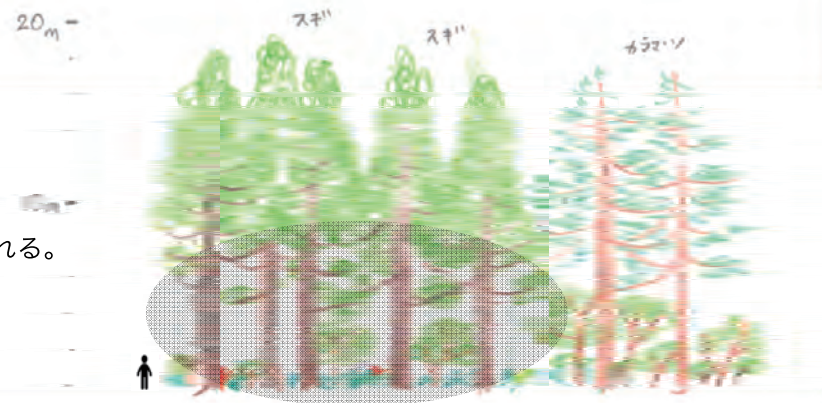
- 下層から育ってきているハルニレを育ててハルニレの森に。
それは、北信濃のふるさとの森となる。
- オニグルミやコブシなど花や実の美しい、恵みとなる多様な樹木も共存。
- 林床はヤブを払い、光が入るようにして草花や生きものを増やす。ニリンソウも広がるだろう。
- 歩きやすく見通しのよい森
- 明るく親しみのある森



ex.スギ・カラマツ植林 (A、B エリア)

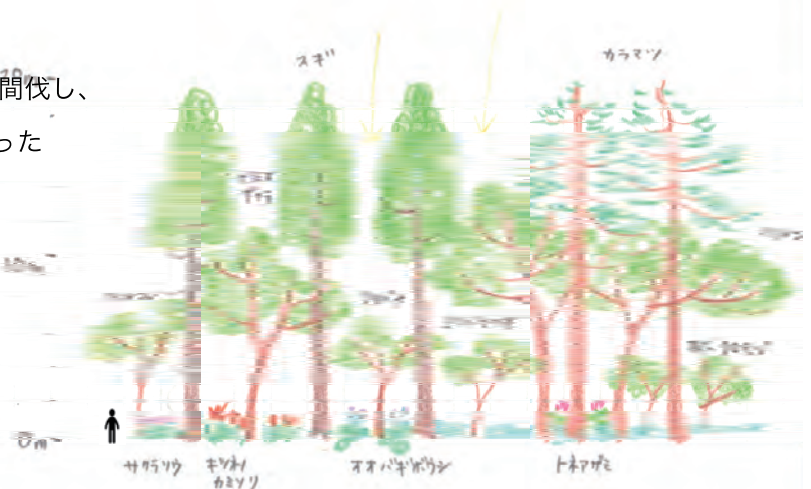
<植生の現状>

- ×スギが混みあい、光が入らない。暗い。
- ×下層の多様な樹木が育っていない。
- ×林床はササが覆っている場所がある。
- 数は少ないが、多様な樹木や草花がみられる。



<こんな森に育てたい>

- スギを活かしながら枝打ち・必要に応じて間伐し、
今より明るくしながらも、明るさを抑え湿った
環境を維持する。
- 植林木だけでなく、下層に多様な広葉樹を
育てる。
- 林床に光が入ると、サクラソウ、キツネノ
カミソリ、サラシナショウマなど美しい花
が増えて咲き出す。



4. これまでの取り組みの概要

本プロジェクトは、2014年の調査を経て2015年に改めて「サンクゼールの森プロジェクト」として立ち上がりました。2016年は関係者が連携しながら具体的な森林整備がスタートしました。これまでに取り組んできた内容を以下に整理します。

年度	①プロジェクトチーム会議	②森の方向性・手入れについての検討・現地踏査	③現地調査
2014	意見交換を随時	-	現状の把握 ・植物相調査・植生調査 ・毎木調査・植生図 ・鳥類調査
2015	-	12月に「サンクゼールの森プロジェクト」として整備方針を示す	-
2016	随時	現地にて作業方針、作業内容の確認→作業の実施	・春植物調査 ・サクラソウ調査・植生調査 ・植物マーキング
2017	メール等による報告、意見交換を随時	具体的な整備に向けて林業専門業者と現地踏査および作業内容の確認	・春植物調査 ・サクラソウ調査・植生調査 ・動物調査（鳥類・哺乳類）
2018	随時	実際に作業を行った森の実施状況確認。南園路のルート設定	・春植物調査 ・サクラソウ調査 ・動物調査（鳥類・哺乳類・昆虫）
2019	随時	久世会長と踏査・現状確認。	・春植物調査 ・サクラソウ調査 ・動物調査（鳥類・哺乳類・昆虫）

① プロジェクトチーム会議

サンクゼールの森をよりよい形で育て、活かしていくためには、関係者が連携して、広がりある取り組みにしていくことが大切です。2019年は信大チームが調査のためサンクゼールへ伺ったときや、メール配信等により、それぞれの動きの連絡調整、情報交換を行いました。

② 森の方向性・手入れについての検討・現地踏査

2014年に作成した森の特徴をおおまかに示したエリア図を用いて、今後どんなコンセプトでどんな森をつくっていくのかを検討し、エリア別の整備方針、優先順位などを決めました。

2018年は情報図を更新して分かりやすくし、関係者で共有しました。また、実際に施行をする大平林業さんもふまえ関係者で現地踏査し、整備状況や今後の方針を共有しました。

2019年は久世良三会長と関係者で現地踏査し、森の現状を確認しました。

③ 現地調査

地域にとって豊かな自然とは何か、この地域のポテンシャルを把握するための調査を2014年に行いました。これをベースによりよい森づくりができていくかを継続して調査しています。2019年は、2018年に引き続き、センサーカメラや昆虫など動物調査を重点的に行いました。

● 貴重な植物サクラソウや春植物等のモニタリング調査

調査結果をもとに、サクラソウや春植物を増やしていくための手入れについての検討を行い

ます。

● 植生調査

手入れによって豊かな自然になっているか、森の変化を調査します。2017年に一期の調査を終え、整備による変化がみられる頃に次回の調査を計画しています。

● 植物のマーキング等

残した方がよい樹木の選定など、緑化管理と調整しながら進めています。

2019年は、園路沿いの木に種名が分かるようマーキングし、今後樹木札等の設置が出来るようにしました。

● 動物調査

2019年はセンサーカメラなどを使った哺乳類の調査の継続の他、昆虫調査では新たにピットホールトラップを行いました。トラップの設置にはサンクゼールの高山さんに協力いただきました。

④ 自然観察会・情報発信

社員の方々が、サンクゼールの森、そして自然の豊かさを知ることによって、地域の自然に親しみをもったり、北信濃から発信するという意義を感じていただいたり、仕事や職場に誇りをもっていただくことにつながります。

2019年は5月のサクラソウ開花に合わせた観察会をクイズを解きながら歩くオリエンテーリング方式で行いました。タ礼で森のお話を予定しています。

5. 2019年の活動記録（観察会・講演会含む）

2019年の活動

3月5日 2018年次報告・2019年計画 チャペルタ礼で森のお話（2018年度分）

4月8日 踏査・打ち合せ

4月19日 春植物調査

5月18日 観察会・サクラソウ調査

5月23日 昆虫他動物調査

6月20日 踏査・打ち合せ・動物調査

8月3日 昆虫他動物調査

8月19日 会食・打ち合せ

8月31日 昆虫他動物調査

9月18日 踏査・秋の花、園路

10月10日 昆虫他動物調査

10月18日 樹木名前付け

12月23日 センサーカメラ交換

1月16日 信大チームミーティング

2020年2月21日 アニマルトラッキング

予定 2019年次報告・森のお話

以下に各回の記録簿を示します。